

項目別評価

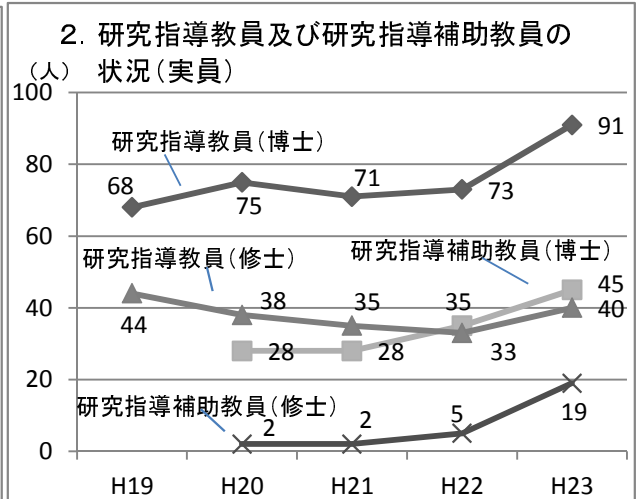
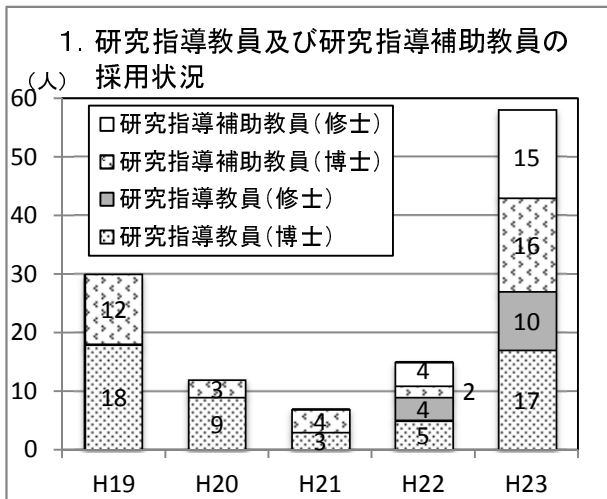
I 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

目標	<ul style="list-style-type: none">・県の中核病院であるとの自覚を熟成させ、質の高い医師・看護職者を養成し、地域医療の質の向上に寄与する。・地域枠の設定等により、県の医療に貢献できる優秀な人材を確保する。・大学院課程では、医学・看護学をはじめ広く医療に関連した分野にも門戸を開き、社会人はもとより幅広く人材を求め、基礎的研究や応用的研究を推進できる環境を構築する。
評定	Ⅲ 「中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる」

注目される取組

- 文部科学省から大学院看護学研究科修士課程設置の認可を受け、平成24年度入学試験では定員（10名）を越える12名の入学を決定している。
- 医学科第3学年においては、早稲田大学と協力し、「医学・医療概論」の中で地域医療倫理、地域医療経済、地域医療政策・法制度の講義とともに、地域医療実習Iを実施するなど、高い実践的臨床能力を重視した教育システムの確立に取り組んでいる。
- 受験希望者から寄せられた質問に対する回答として、平成23年11月に医学科推薦選抜「緊急医師確保特別入学試験」に関するQ&Aをホームページに掲載。
- 授業や大学生活をPRするために在校生が母校を訪問する制度「奈良医大PR隊」を学生に周知し、看護学科学生の母校訪問を実施するとともに、教員及び事務担当者が高校や予備校等を訪問し、説明を行っている。
- 医学科第3学年を対象に「県内他大学と単位互換学習（2単位）」及び「保育所・診療所での実習（2単位）」の選択必修制を実施している。
- 研究指導体制充実のため、研究指導教員及び研究指導補助教員を積極的に採用している。
【1. 研究指導教員及び研究指導補助教員の採用状況】
【2. 研究指導教員及び研究指導補助教員の状況（現員数）】
- オープンキャンパス充実のため、平成22年度から引き続き、医学科、看護学科と学科毎に実施し、参加者が830名から1000名に増加している。
- 奈良に愛着を持つ人材を育成するため、医学科では「医学特別講義」で奈良の歴史に関する講義を、看護学科では「万葉の文学」、「奈良学」を実施している。



※修士課程はH20年度から設置しており、設置当初の教員は文部科学省の認定により選任している。
 設置の2年後(H22年度)以降でないといと法人で採用はできない。
 ※教授(採用手続きを要しない)は除く。

※修士課程の設置当初に文部科学省の認定により選任した教員及び教授(採用手続きを要しない)を含む。

今後取り組むべき課題

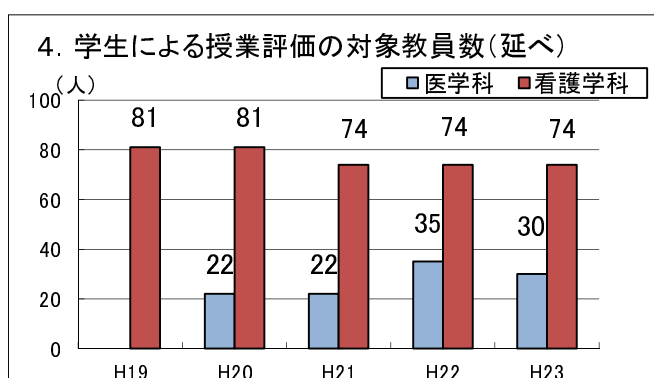
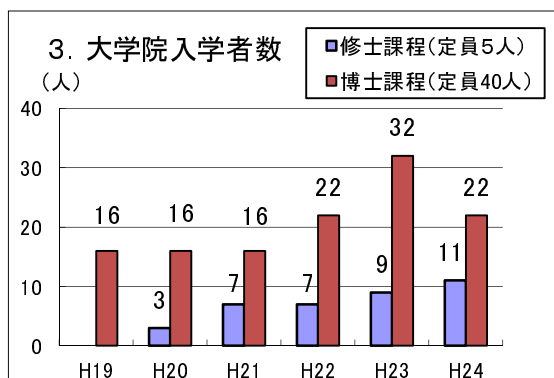
- 種々の施策を立案し、大学院博士課程の定員を充足すべきである。

【3. 大学院入学者数】

- 看護実践研究センターの設立について、他学の「看護実践研究センター」の活動調査及び情報収集を行い大学院修士課程設置後に検討を行うとしていたが、他学の活動調査及び情報収集がされていない。他学の活動調査及び情報収集を行い、看護実践研究センターの設立に向け、計画的に取り組まれない。

- 平成22年度の医学科・看護学科学生による教員の授業評価結果は、教員にフィードバックしているものの改善されたか調査がなされていない。改善状況を把握し、教育の質の向上に資するよう取り組まれない。

【4. 学生による授業評価の対象教員数(延べ)】



注:(例)H24の欄はH23年度試験実施、H24年度入学をいう。

(注) 対象教員数は延べ人数であり、ひとりの教員が複数の授業科目を担当している場合は複数でカウントしている。なお、看護学科は平成19~23年度まで教員全員が授業評価の対象となっている。

項目別評価

I 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・独創性豊かでレベルの高い研究に取り組み、「ナンバーワン」分野を持った特色ある大学を目指す。 ・共同研究、産学官連携を積極的に推進する。
評定	IV 「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」

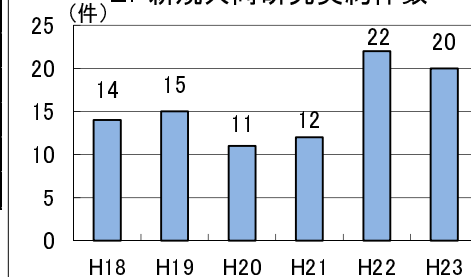
注目される取組

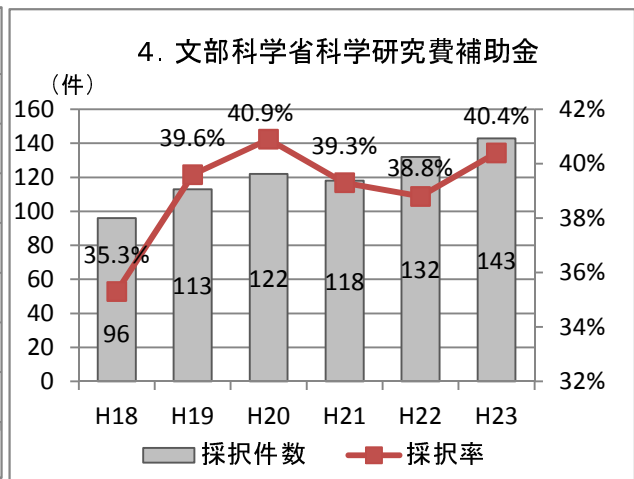
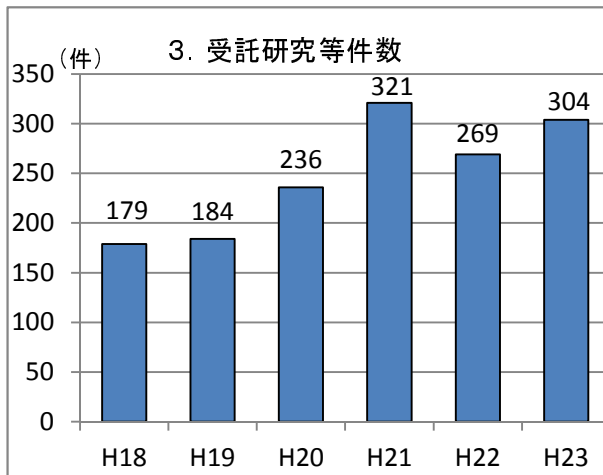
- 平成23年4月に産学官連携推進センターを設置し、産学官連携推進ポリシー、知的財産ポリシー、利益相反ポリシーを制定している。
- 産学官連携推進のため、本年度も寄附講座を設置しており、また、知的財産に関するセミナーや各種会議の開催・参加など、産業界等と積極的に交流の機会を設けているとともに、医療現場の意見を基に県内企業2社と共同開発・商品化を実施している。
 - 【1. 寄附講座等設置実績】
 - 【2. 新規共同研究契約件数】
- 外部資金による委託研究や補助金等の募集内容を学内ホームページで紹介し、また、平成24年度文部科学省科学研究費補助金の応募前説明会を開催するなど、積極的に取り組んだ結果、外部資金の援助による研究の件数が増加している。
 - 【3. 受託研究等件数】
 - 【4. 文部科学省科学研究費補助金採択件数・採択率（新規+継続）】
 - 【5. 文部科学省科学研究費補助金採択件数・採択率（新規のみ）】
- 文部科学省の女性研究者研究活動支援事業の採択を受けて、女性研究者支援センターを平成23年2月に設置し、新たに特任教授及び研究支援員6名を配置し、女性研究者の研究継続支援のための取組を実施している。
- 治験センターのコーディネーターを2名から4名に増員し、新規治験件数の増加に努めるとともに、新たに医師主導型治験を1件実施している。
 - 【6. 新規治験件数】

1. 寄附講座等設置実績

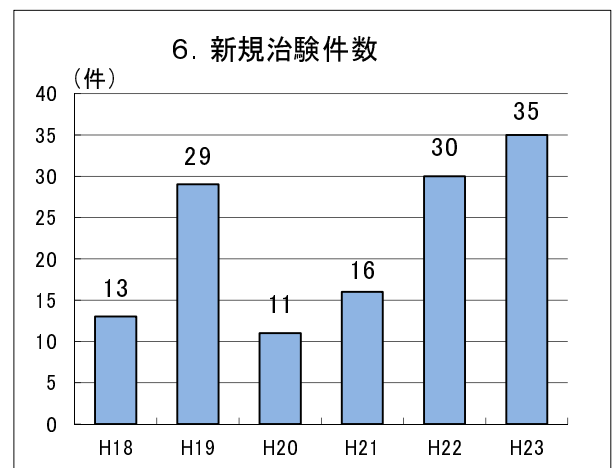
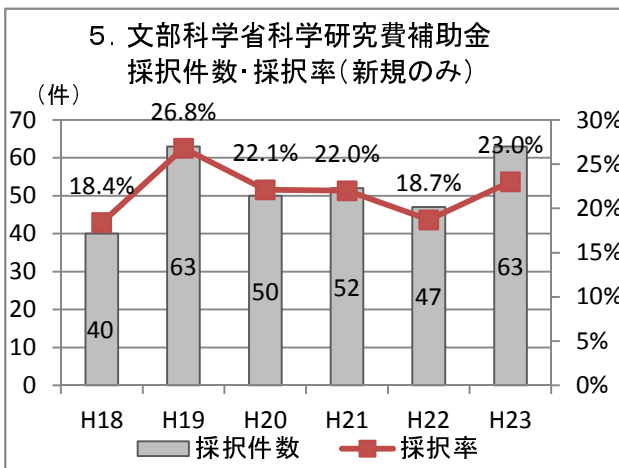
年月	大学名
平成18年 4月	住居医学講座
平成21年 4月	血栓制御医学講座
平成22年 4月	血圧制御学講座
平成22年10月	地域医療学講座
平成23年 4月	人工関節・骨軟骨再生医学講座

2. 新規共同研究契約件数





※複数年度にまたがる契約については、各年度で1件とカウント



今後取り組むべき課題

- 奈良メディカルネットワークの構築について、県立奈良病院及び三室病院の電子カルテが平成24年3月に稼働したところである。今後、臨床応用研究推進の基盤として県全体の地域医療連携の充実に向けて、関係機関と調整しながら着実に取り組まれない。

項目別評価

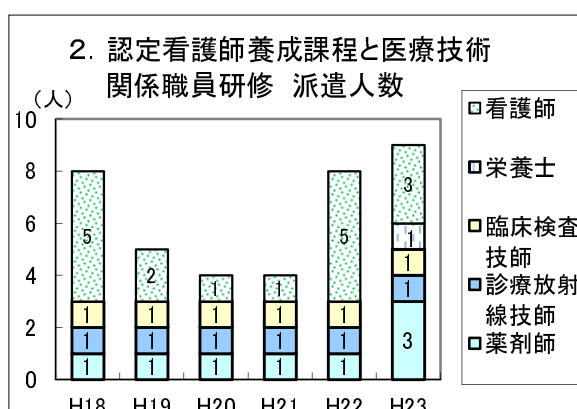
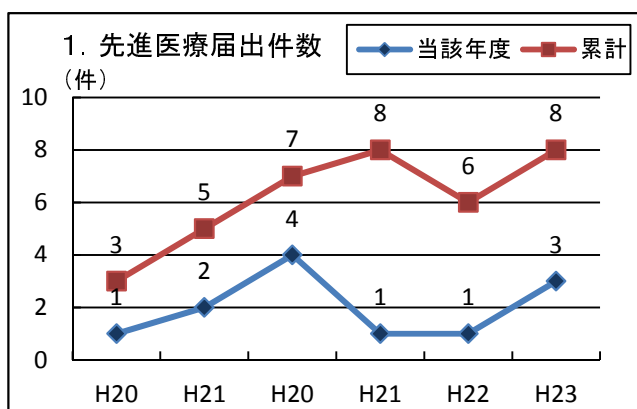
I 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置

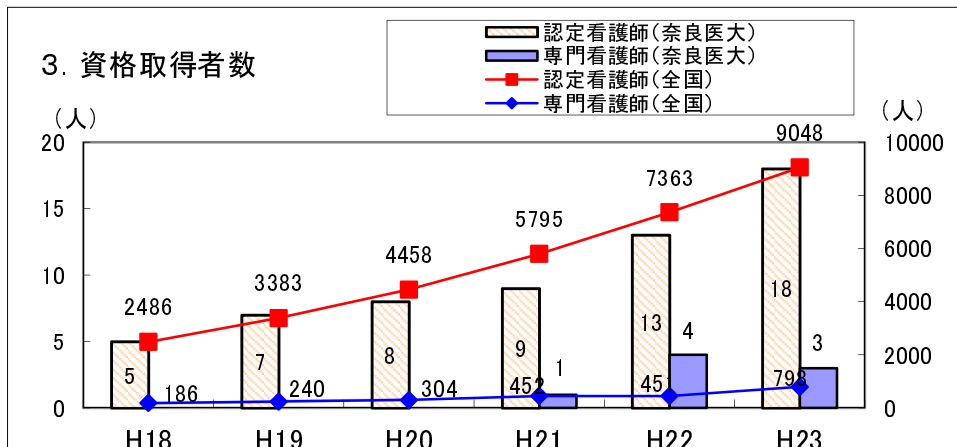
目標	<ul style="list-style-type: none"> 患者に信頼される良質で安全な医療の提供、特定機能病院として、高度先進的、総合的な医療の開発・提供を行う。 奈良県の中核病院として、地域医療機関との連携を強化する。
評定	IV 「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」

注目される取組

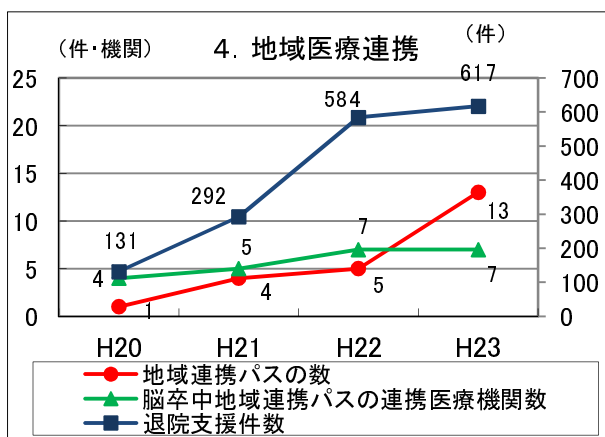
- 平成23年6月、地域医療総合支援センターを設立し、地域医療学講座の研究成果をもとに、脳卒中救急医療設計図や、県費奨学生キャリアパスについて協議・立案している。
- 平成23年5月、(財)日本医療機能評価機構の病院機能評価(Ver.6.0)認定を取得している。
- 高度先進医療の積極的な提供を目指すため、新たに3件を申請し認可を受けている。
【1. 先進医療届出件数】
- 臨床研修センターの改修等研修環境を改善、平成23年度から研修医に対して住居手当・通勤手当を支給する等処遇を改善している。
- 医師・看護師・コメディカル等医療関係職員に高度な専門的知識と能力を修得させるため、研修会へ派遣を実施するとともに、高度医療技術修得者養成認定制度を創設し、2名認定するなど、充実に向けた取組を推進している。
【2. 認定看護師養成課程と医療技術関係職員研修派遣人数】
【3. 資格取得者数】
- 虚血性心疾患地域連携パスや5大がん連携パスの運用を開始するなど、地域医療機関の医療水準の向上のため、地域連携パスの運用件数の増加に努めている。
【4. 地域医療連携】
【5. 地域連携パスの運用件数】



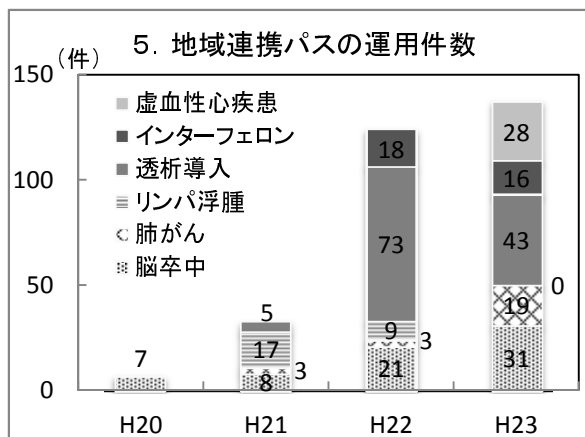
3. 資格取得者数



4. 地域医療連携



5. 地域連携パスの運用件数



今後取り組むべき課題

- 県立病院の電子カルテ整備状況の把握に努め、大和路医療情報ネットワークの構築検討に向けた意見交換を実施する計画について、県立奈良病院・三室病院の電子カルテが稼働したことから、今後、県全体の地域連携に向けた協議について取り組まれない。
- 総合診療科の体制等の見直しと糖尿病外来、形成外科センターの設置を行っているが、疾病を臓器を越えて病因別に捉える統合的な医療システムについては、構築には至っていない。患者への全人的・総合的医療の提供に向けて着実に取り組まれない。

項目別評価

I 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標を達成するための措置

4 社会との連携、国際交流等に関する目標を達成するための措置

目標	<ul style="list-style-type: none">・地域、社会への健康啓発活動や生涯教育を推進する。・世界を視野に入れた教育、国際的貢献を行うため、外国の大学等との交流・連携等を推進する。
評定	Ⅲ 「中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調にすすんでいる」

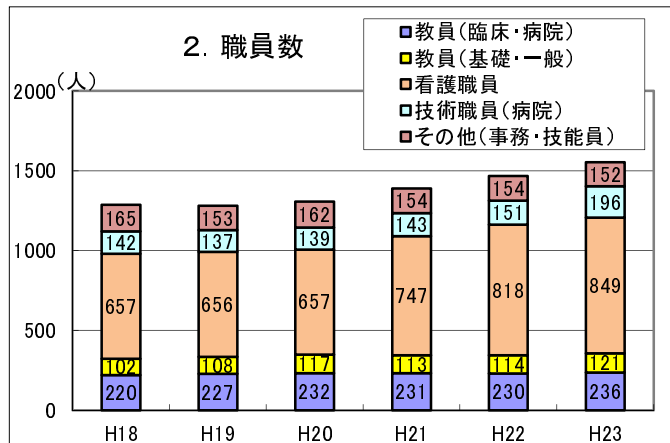
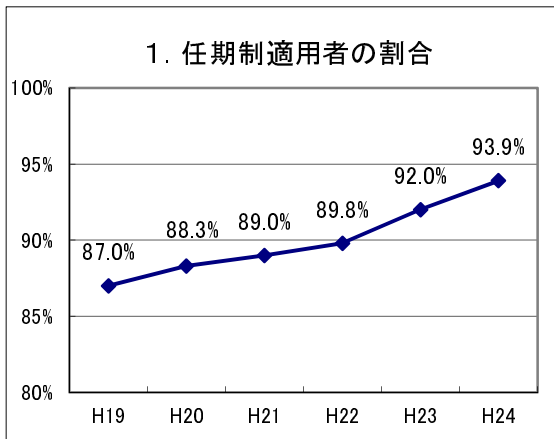
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

【1 運営体制の改善 2 組織の見直し 3 人事の適正化 4 事務等の効率化・合理化】

目標	<ul style="list-style-type: none">・理事長のリーダーシップのもと、機動的で責任ある運営体制を構築する。・附属病院の業務運営や経営の健全化を一層推進させるための体制を構築する。・高い専門性を有した職員の育成・確保と適正で計画的な人員管理を行う。
評定	IV 「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」

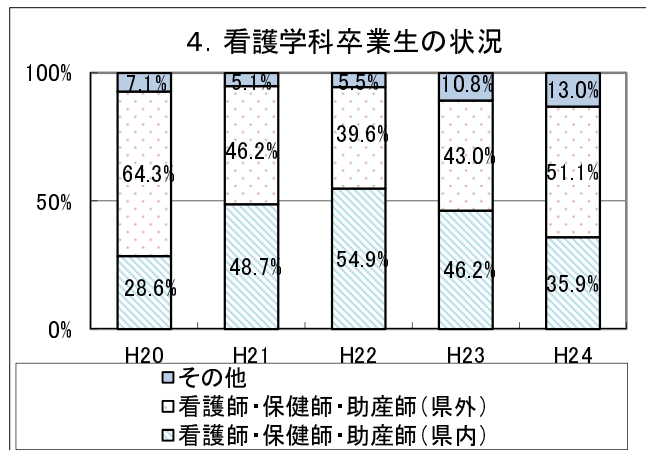
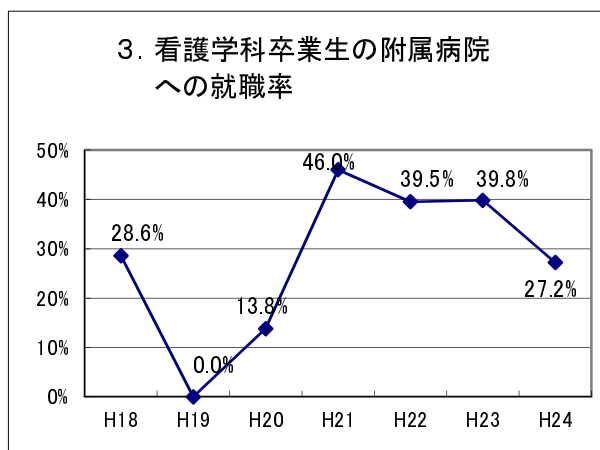
注目される取組

- 附属病院長サポート体制については、経営コンサルタントを活用するとともに、病院経営・運営会議等を通じて諸課題に対応するなど、附属病院長のサポート体制の充実に努めている。
- 教育・研究・診療機能の活性化を図るため、新たに採用した教員については全員、任期制（6年）を適用するなど、全教員の任期制の同意に向けた取組を推進している。
【1. 任期制適用者の割合】
- 周術期における医師や看護師の業務改善のため臨床工学技士の増員を行うとともに、専門看護師や認定看護師に対する手当の新設、契約専門職員の給与・休暇等の処遇改善を実施している。
【2. 職員数】
- 学内保育園の建て替えを行い、平成24年4月入園から定員を18名から40名に増員するとともに保育時間の拡大など保育内容を充実している。



今後取り組むべき課題

- 同窓会の卒業生名簿を譲り受け、分析方法等を検討するとしていたが、検討には至っていない。適切に追跡調査・評価を実施し、教育システムの向上に努めるべきである。
- サバティカル制度などインセンティブが働くような制度を考慮しながら再任評価の準備を進めるとしていたが、内容の検討にとどまっている。一定の成果を上げた教員に対して労働意欲を高めるための取組を進めるべきである。
- 看護学科卒業生の附属病院への就職率（50%以上）の達成に向けた取組を強化するとしていたが、就職者は25名（27.2%）にとどまっている。7対1看護の安定稼働に向けて、更なる附属病院内への就職率の向上に努められたい。
 【3. 看護学科卒業生の附属病院への就職率の推移】
 【4. 看護学科卒業生の状況】
- 高い専門性を有した職員を育成する取組として、コメディカル等を専門的な研修に派遣し、また、派遣結果を踏まえた教育・研修プログラムの検討を行うとしていたが、教育・研修プログラムの検討が進んでいない。今後、当該プログラムを計画・実施できるよう一層の取組を進めるべきである。



※(例) H24はH23年度卒業、H24年度就職をいう。
 ※H19はH16.4に4年制看護学科を開設したため、看護師の卒業生がない。

※(例) H24の欄はH23年度卒業、H24年度就職をいう。

項目別評価

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

【1 外部研究資金その他自己収入の増加 2 経費の抑制 3 資産の運用管理の改善】

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 附属病院の業務運営や経営の改善の一層の推進による収入の確保と経費の削減 ・ 競争的外部資金等の獲得や人件費、管理経費の抑制
評定	Ⅳ 「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」

注目される取組

○ 医業収益の確保及び経費抑制に努めた結果、本年度も黒字決算となり、繰越欠損金が減少している。

【1. 附属病院収入】

○ 学内ホームページでの紹介や、平成24年度文部科学省科学研究費補助金の応募前説明会の開催等による啓発を行っており、文部科学省科学研究費補助金等外部資金の獲得金額が増加している。

【2. 外部資金の獲得金額】

【3. 文部科学省科学研究費補助金採択金額】

○ 手術室担当のMEを8名増員するとともに、がん患者の増加に対応するため手術室の体制を整備。また、手術枠を増加させるなど、手術室の有効活用に取り組んでいる。

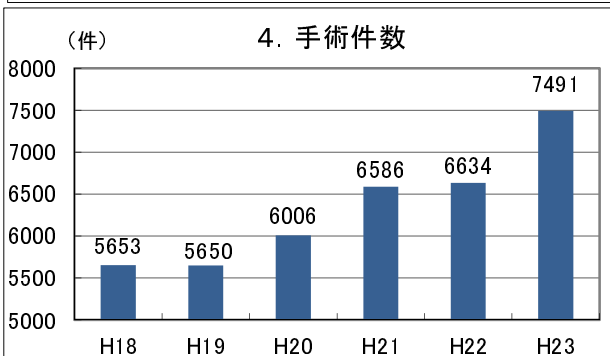
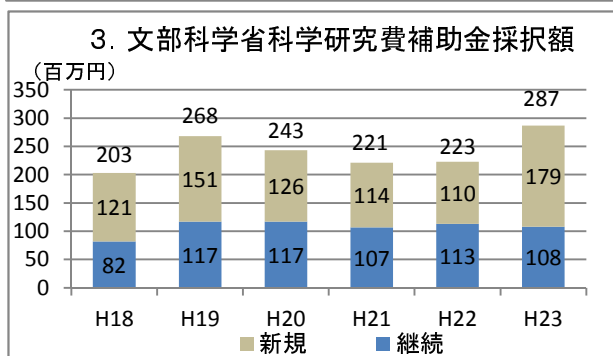
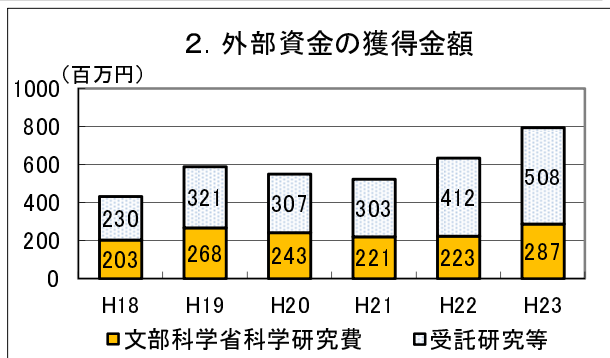
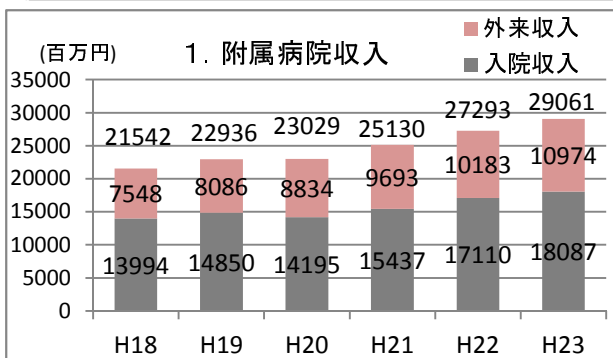
【4. 手術件数】

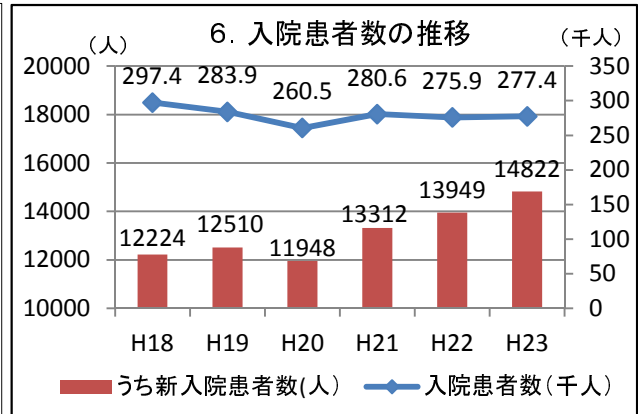
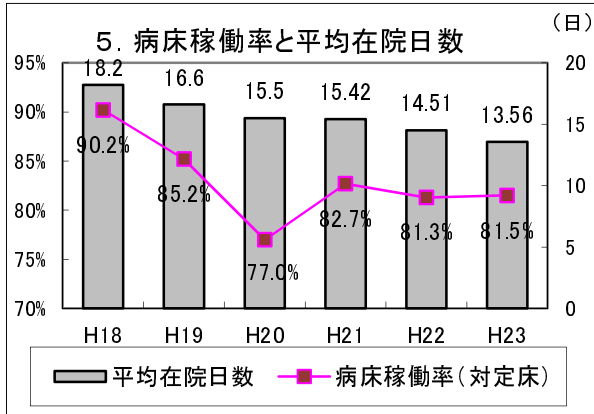
○ 脳卒中ケアユニット入院医療管理料や精神科救急・合併症入院料などの施設基準届出の促進、手術件数の増加、平均在院日数の短縮等により入院・外来の診療単価が上昇している。

【5. 病床稼働率と平均在院日数】

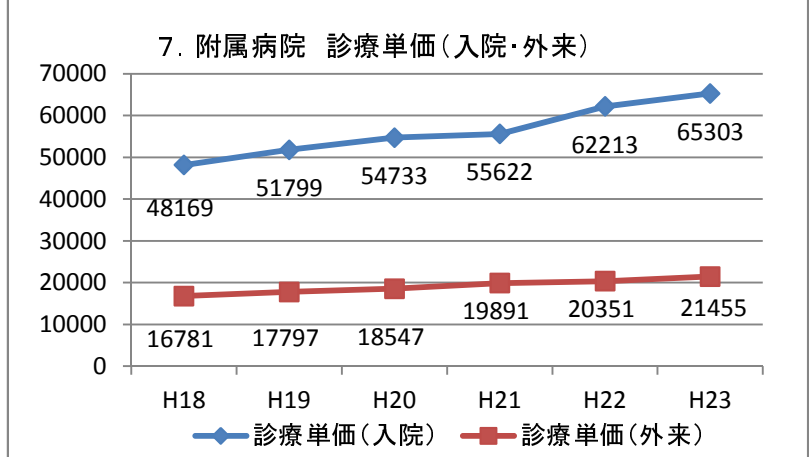
【6. 入院患者数の推移】

【7. 附属病院 診療単価（入院・外来）】





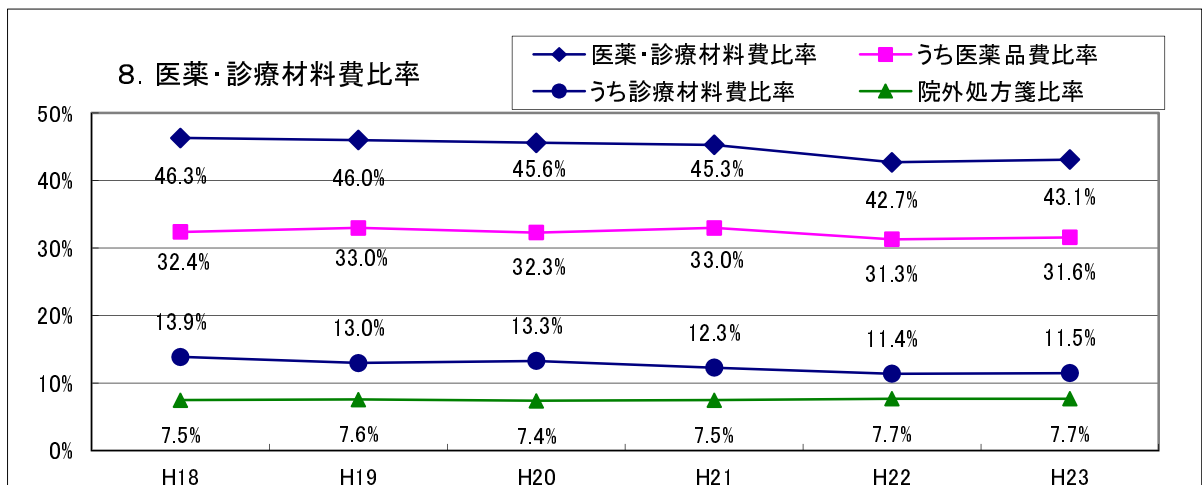
【中期計画の目標値】
 病床稼働率93%、平均在院日数15日を目指す。
 H23実績 81.5%、13.56日



今後取り組むべき課題

● 医薬品・診療材料費の積極的な値引交渉による約1.7億円の削減や、診療材料の安価品目への切替等を実施しているものの、平均在院日数の短縮等により、医薬・診療材料費比率は、43.1%と年度計画(42%)の達成には至っていない。経費削減に向け、より一層、取組を推進されたい。

【8. 医薬・診療材料費比率】



【中期計画の目標値】
 医薬・診療材料費比率
 41%を目指す。
 H23実績 43.1%

項目別評価

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

【1 評価の充実 2 情報公開等の推進】

目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価を実施し、大学運営の改善等に活用し、継続的な質的向上の促進を図る。 教育・研究・診療活動や業務運営に関して積極的に情報を発信する。
評定	Ⅲ 「中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる」

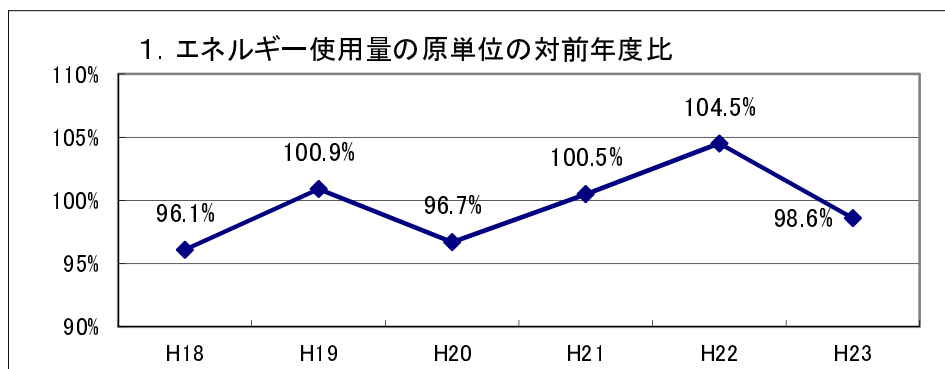
V 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置

目標	<ul style="list-style-type: none"> 長期的な展望のもとに整備計画を策定し、計画的な改修・改築等の整備に向けた取組を推進する。
評定	Ⅲ 「中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる」

注目される取組

○省エネルギー対策に取り組むため、機器の更新時に省エネタイプを導入するなどにより、電気・ガスの使用量の原単位は、前年度比1.4%減を達成している。平成24年度以降も、電力の逼迫が予想されることから、より一層、取組を期待する。

【1. エネルギー使用量の原単位の対前年度比】



VI 安全管理等に関する目標を達成するための措置

目標	<ul style="list-style-type: none"> 天災・人災等、不測の事態において、地域社会に貢献できる危機管理体制を整備・充実する。 良好な修学・療養環境づくりに努める。
評定	Ⅲ 「中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる」

注目される取組

○消防・防災訓練について、防火・防災に係る消防計画書の作成や、災害発生時の初動マニュアルの作成と図上訓練の実施、患者移送訓練の実施など幅広い取組を実施している。